Appendix 2

本特集におけるコーディング・ ガイドライン 舘 伸幸

C言語はその記述の柔軟性ゆえに、気付かないうちに容易に 危険な記述が混入してしまいがちです. また C 言語に限りませ んが、記述する人ごとに、あるいは場合によっては記述時の気 分で書式はまちまちになります。前者は不具合に直結する可能 性があります.しかも多くの場合、予期せぬ条件で顕在化する、 たちの悪い不具合になりがちです。後者は必ずしも不具合を引 き起こさないまでも、レビューや後日の保守、再利用時の効率 を著しく低下させます.このため、これまでの不具合事例の経 験値を基に MISRA-C やコーディング作法ガイドといったもの が研究され、発表されています。

本特集でも、複数の筆者による説明用のサンプル・プログラ ムを掲載しています。記述にばらつきがあると読みにくくなっ てしまうので、執筆にあたり、最低限のルールを定めました^{注1}. もちろん読者の皆さんが普段愛用されている方法とは当然差異 があると思いますが、すべて同じルールに従っているという1 点をもってご容赦いただきたく思います.

特に奇をてらったルールではありませんが、ソースを読む上 で助けになりそうな幾つかのルールについて以下に列挙してお きます.

リスト1 共通ヘッダ・ファイル (common.h)

```
.
/* 共通ヘッダ
/* 変更履歴
  V1.00: 2008.02.25 新規作成
/* V1.01: 2008.03.04 型定義に uint を追加
#ifndef COMMON H
#define COMMON H
/* 型定義
typedef unsigned char
                           uchar;
typedef unsigned short
typedef unsigned long
                           ulong;
typedef unsigned int
typedef int
                           bool:
/
/* マクロ定義
#define ON
               1
#define OFF
#define OK
#define ERROR
#define TRUE
#define FALSE
#endif /* COMMON H */
```

1)変数の型について

char, short, long, int はそのまま使いますが,以下の 型については共通のヘッダ・ファイル (「common.h |. リスト 1)を設け、より使いやすい型名を宣言しました。

- unsigned xx はそれぞれ uchar, ushort, ulong, uint
- ●1か0しか値を持たない変数はbool (実体は int を使う)

2) プリフィクス

変数名、関数名には型を表すプリフィクスを付けました。た だしループ用変数 i, j, kは, そのまま使用可能としています.

```
char \rightarrow c, short \rightarrow s, long \rightarrow 1, int \rightarrow i
uchar \rightarrow uc, ushort \rightarrow us, ulong \rightarrow ul
void \rightarrow vo, bool \rightarrow b, struct \rightarrow st
```

例) char Tmp; → char cTmp;

ポインタ変数は、上記プリフィクスの前にpを付けて区別し ました.

例) uchar *Tmp; → uchar *pucTmp;

やむを得ずグローバル変数を使う場合は、上記プリフィクス の前にgを付けて区別しました.

例) uchar Tmp; → uchar gucTmp;

3) 命名規則

ほかのモジュール^{注2}から呼ばれるグローバル関数名は「モ ジュール名 プリフィクス・動詞・名詞()」としました.

例) Uart ucGet1Byte()

Calc sConvStr2Bin()

内部関数名 (static) は 「プリフィクス・動詞・名詞 () | とし ました.

例) ucCheckString()

変数名は「プリフィクス・変数名」とし、できるだけ意味の分か る名称としました.

例) ucRecData

4) そのほか

単項演算子以外の演算子は前後にスペースを入れたり、適宜 空行を入れたりするなど、見やすさに配慮しました.

たち・のぶゆき NEC マイクロシステム(株)

注1:ただし、抽象的な内容の部分については、読みやすさを優先している。

注2:ここでは、対になるソース・ファイル(*.c)とヘッダ・ファイル(*.h) の組み合わせを「モジュール」とし、*をモジュール名としている.